

## ご挨拶

常日頃、私たちの活動をおぼえ、ご支援、ご協力くださっていますことに、心から感謝いたします。

ここ数年、社会に大きな影響を与え続けた新型コロナウイルス感染症は収束を迎え、日常がコロナ禍以前に戻った感があります。

ところが、仙台市内では、窮状を訴える路上生活者、生活に瀕する困窮者たちが、むしろ増加傾向にあります。会社都合による雇用止め等によって、20代、30代の若者たちを始めとする稼働年齢層が職を失い、生活に窮してしまう事例が後をたちません。

私たちが継続的に実施している路上生活者対象のアンケート調査では、コロナ禍の影響で職を失ったという回答が、全体の10パーセント前後で推移しています。

雇用側を疲弊させ、非正規、アルバイト、パートといった不安定雇用にある人たちが真っ先に、また次々に解雇されるという、コロナ禍以降の深刻な問題が明らかになって来ています。

私たちが年中無休で開設している相談センター「HELP! みやぎ」にも、コロナ禍によって、失職や居場所の喪失で途方に暮れる人たちは勿論のこと、路上生活者、アルコールやギャンブル依存症で苦しむ人たち、多重債務で生活破綻にある人たちからの相談が日々舞い込んでいます。そのような彼ら彼女らのSOSに、なんとか繋がっていけるよう、組織としての体力づくり、仕組みづくり、人材育成が急務と考え、鋭意努力中です。また、路上生活者、生活困窮者を生み出し続ける国や社会の構造的な問題を看破し、解決に向けた施策提言も継続中です。

2022年1月に行われた厚労省による全国調査の結果、仙台市内には、いまだ84名の人たちが路上生活を余儀なくされていることが明らかになりました。ネットカフェ長期滞在者、車上生活者を含めると、100名以上の人たちが、今この時、「いのち」の危機に瀕しています。誰がいつどのような形で生活に窮するかわからない混迷の時代にあって、誰もが尊厳を持って生きることのできる社会を形成するため、当事者たちとの出会いを最優先に、一人ひとりが抱えている具体的な課題に届いていくべく、今後も歩んで参ります。

仙台の厳冬をなんとか乗り越えられるよう、あらゆる手立てを尽くして支援を行う越冬期間が今年も始まりました。行政担当部署や公共施設が長期休みに入る年末年始を始め、連日、食や居場所の提供、緊急相談対応を行なっています。

どうか、私たちの活動を、引き続きおぼえてくださり、ご理解、ご協力を賜りますよう、心よりお

願ひ申し上げます。

なほ、支援活動の次回報告(2024年度)は、2024年7月頃を予定しています。  
昨年度(2022年4月～2023年3月)の活動報告は、夜まわり報告41号(2023年7月発行)でさせていただきます。夜まわり報告41号をご希望の方は、ご遠慮なくお申し出ください。

特定非営利活動法人 仙台夜まわりグループ  
理事・事務局長 青木康弘